



あと一步の向上に向けた取組

函館市立大船小学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

- (1) 校内の「学力向上委員会」による学力向上の推進と校内の「特別支援委員会」を中核とした個別の指導計画の検討
- (2) T T, 教科担任制の活用
- (3) 家庭学習の推進と定着
- (4) 全学級授業公開と研修会等への積極的な参加

2 取組の概要

- (1) 本校では、平成20年度から「学力向上委員会」「特別支援委員会」を立ち上げ、PDCAのマネジメントサイクルを活用し、個別の指導計画に基づく積極的な支援を行っている。全校児童が標研式学力検査(CDT-II)を行い、結果の分析を通して、各学年ごとに具体的な改善計画を作成し実行している。さらに、チャレンジテストの活用や全国学力学習状況調査の分析を行い、その交流会を設けるなど全校体制で課題の克服に取り組んだ。また、昨年度から取り組んでいる「発表の仕方」「話しの聞き方」の取組も継続した。
- (2) 平成21年度から、2・3年生の複式学級ができ、複式教育の充実を目指しTT・教科担任制を実施している。現在の複式学級の指導体制のほか、今後の複式学級の増加に対応するため、低学年はもとより、高学年では「体育」などを合同で学習し、より学習効果の高い指導体制への改善を図っている。
- (3) 一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の実施と学習習慣の定着のために家庭学習の推進に取り組んだ。「家庭学習の手引」を配付し、宿題を含め「学年×10分」の家庭学習の定着を推進してきた。週ごとの計画作りや励ましカードの活用等で、進んで取り組むようになり、定着が見られるようになってきた。
- (4) 「常に子どもの側に立ち研修を深め、創造する教師」を目指し、全学級で授業公開を実施した。事前・事後の研修を通して、一人一人の授業力の向上に努めてきた。また、研修会・研究会へ全職員が複数回参加し、授業力向上に取り組んだ。

3 成果(○)と課題(●)

- 「学力向上委員会」「特別支援委員会」を活性化することで、「チャレンジテストの活用」や「学力検査の分析」、「個別の指導計画」の充実に学校全体として取り組んだ。職員相互の共通理解のもとで教育活動を進めることができた。
- 家庭学習の質の向上と読書習慣の定着のために、地域・保護者をまきこみながら、共に一層の推進を図っていくこと。